

(19)

氏名(生年月日) **小 松 彦 太 郎**
 本 籍
 学位の種類 医学博士
 学位授与の番号 乙第621号
 学位授与の日付 昭和58年7月8日
 学位授与の要件 学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
 学位論文題目 **肺腺癌の術後予後に関する検討**
 論文審査委員 (主査)教授 滝沢 敬夫
 (副査)教授 梶田 昭, 教授 重田 帝子

論 文 内 容 の 要 旨

研究目的

肺腺癌の予後を規定する因子は多岐にわたっており、議論の多いところである。そこで、肺腺癌の術後予後との関係を、病期、組織形態、細胞形態、核DNA量について検討した。

研究対象

昭和51年から56年6月までに東京病院で手術を施行した肺癌症例のうち、術後病理組織学的に腺癌と診断した30例を対象とした。

研究方法

1. 病期

日本肺癌学会の病期分類に従い術後病期(P-TNM)をもちいた。

2. 組織形態

通常のパラフィン包埋による組織切片を作成してH.E.染色を行ない、腫瘍の最大断面の組織構築から、乳頭状または管腔形成の部分が全体の3/4以上を占めるものを高分化腺癌とし、1/4以下のものを低分化腺癌とし、その中間のものを中分化腺癌とした。

3. 細胞形態

上記のH.E.染色標本を用い、細胞異型(CAT)と細胞分裂像を検討し、さらに、切除肺の捺印標本のパバニコロ染色を用い、細胞形態を検討した。細胞異型(CAT)は、標本上最も異型の強い部分をもち、異型の弱いものをCAT I、強いものをCAT III、中間のものをCAT IIとした。細胞分裂像(M)は、光学顕微鏡400倍の視野を用い、ほとんどみられないものをM(-)、1視野から数視野に1個みられるものをM

(+)、1視野に2個以上みられるものをM(++)とした。

4. 核DNA量の測定

切除肺の捺印標本を用い、パバニコロ染色による腫瘍細胞の形態を観察した後、フォイルゲン染色を行ない、オリンパスMMSPによる顕微測光法により核DNA量を測定した。腫瘍細胞の核DNA量は、標本上の正常肺上皮細胞の核DNA量の平均値(2C)に対する相対値とし、100から200個の腫瘍細胞を測定し、ヒストグラムを作成した。

研究結果および結論

1) 核DNA量ヒストグラムのパターンから1峰性のType I、2峰性のType II、はっきりしたピークを示さないType IIIに分類した。Type Iの中でも2C域および3C域にピークをもつもの予後は良く、4C域以上にピークをもつものおよびType IIIの予後は悪い傾向がみられた。また、Typeに関係なく4C以上のhighploidの細胞が20%以下の例の予後は良いが、20%を越える例の予後は悪い傾向がみられた。

2) 腫瘍の捺印標本のパバニコロ染色による細胞所見では、多形性が少なくクロマチン量の少ないもの予後は良いが、多形性がありクロマチン量の多いもの予後は悪い傾向がみられた。

3) 細胞異型(CAT)が弱く、細胞分裂数が少ないもの予後は良く、細胞異型が強く細胞分裂数が多くみられるもの予後は悪い傾向がみられた。

4) 病期I期および高分化腺癌の予後は、一般に良好であるが、予後の悪い症例もみられた。これらの症例

は、細胞異型が強く細胞分裂像が多くみられ、パパニコロ染色による細胞所見でも多形性がありクロマチンの豊富なものが多く、また核 DNA 量の増加もみられるものであった。病期 III, IV 期および中、低分化腺癌の予後は不良であり、核 DNA 量の増加がみられ、細胞異型も強く、パパニコロ染色でも多形性がありクロマ

チンの豊富なものが大部分であった。

以上の結果から、肺腺癌の術後予後を推測するうえに、病期および分化度は一定の役割をはたしているが、細胞異型、細胞分裂像、パパニコロ染色による細胞所見の観察、さらに核 DNA 量の測定は重要な役をはたすものと思われる。

論文審査の要旨

本研究は肺腺癌の術後予後と関連して病期、組織形態(分化度)、細胞形態(異型度と分裂像)のほか、核 DNA 量測定の意義を検討したものである。とくに肺腺癌の術後予後と核 DNA 量との相関を明らかにした上で学術上価値ある研究と認める。

主論文公表誌

肺腺癌の術後予後に関する検討

肺癌 第23巻 第1号 33~44頁(昭58年4月発行)

副論文公表誌

- 1) 術後7年以上長期生存している肺の燕麦細胞癌の1例.
肺癌 19 177~182 (1979)
- 2) 24歳の肺腺癌患者の1切除例および当院における若年者肺癌の切除例の検討.
日胸外会誌 28 133~138 (昭55)
- 3) 肺癌と活動性結核の合併例の検討.
日胸 39 933~939 (昭55)
- 4) 肺癌と活動性結核の合併例の検討.
結核 56 49~55 (1981)

- 5) いわゆる細気管支肺胞上皮癌の細胞学的検討について.

日細胞会誌 19 393~398 (昭55)

- 6) いわゆる細気管支肺胞上皮癌の検討.

日胸 39 772~778 (昭55)

- 7) 未分化癌、とくに小細胞癌の治療.

medicina 18 1288~1289 (1981)

- 8) 肺腺癌の予後診断.

臨床成人病 12 119~124 (昭57)

- 9) 気管狭窄をきたし、病理学的に興味をもたれた食道癌の1例.

日胸 39 148~151 (昭55)